

流通改革を完成する 覚悟で取り組む

(一社)日本医薬品卸売業連合会会長

鈴木 賢



おはようございます。

本日は、足元の悪い中、そしてお忙しい中、日本医薬品卸売業連合会セミナーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

日頃、日本医薬品卸売業連合会の業務運営に格段のご協力、ご支援をいただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、来年度は、薬価改定と消費税の引き上げが予定されています。また、本年度は流通改革第三ラウンドの2年目で、これまで全力を挙げて取り組んできた流通改革に確実な成果を得たいと考えています。そこで、本年度のセミナーのテーマは、「来年度薬価改定と流通改革第三ラウンド」としました。

現在取り組んでいる流通改革第三ラウンドは、来年3月まで、残すところわずかになりました。厚生労働省経済課のご指導をいただきながら、力をつくしてまいりました結果、川下の流通では、大変厳しい価格交渉ではありましたが、全品総価取引は大きく後退し、単品単価取引が主流になったと思っています。単品単価取引により商慣習が大きく変わりつつあり、また、新たな問題も出てまいります。メーカーが来年の薬価改定で強く希望されている新薬創出加算制度の恒久化や、保険医療上必要な医薬品の薬価算定方式の実現は、これらの制度が薬価と市場価格の乖離率に着目して設計されているので、単品単価取引の徹底が必要となります。つまり、これらの制度は、流通改革といわば表裏一体の関係にあると考えます。本日、ご参加いただいているメーカーの方々には、価値に見合った仕切価の設定など、単品単価取引を推進するための環境整備について一層のご尽力をお

願いしたいと思っています。

また、消費税については、いわゆる損税問題があります。中医協消費税分科会での議論が進み、薬価には消費税相当額が上乘せされていることが明示される方向で制度的な対応が図られる予定です。損税の誤解も徐々に消えていくものと思っていますが、私ども卸も卸連として作成したパンフレットを活用しながら、広報活動に努めていくことが重要であると考えています。

いま、各ブロックで地区会議を開催していますが、流通改革の取組みの話、ジェネリックの今後の問題、そして消費税の対応などがテーマで取り上げられています。

このように、医療用医薬品の流通は大変重要な時期にさしかかっていると思います。来年度以降は、現在の流れを定着、また徹底することが重要です。次回の薬価改定後の価格交渉では、流通改革を完成する覚悟で取り組まなければなりません。また、社会保障と税の一体改革の理念に従い、かつ、8%から10%への引き上げを視野におさめながら消費税の円滑・確実な転嫁を図るように努めなければならないと思います。

本日は、厚生労働省の城経済課長に基調講演をいただき、その後、来年度の診療報酬・薬価改定、流通改革の今後の方向性、消費税問題などについて、それぞれのテーマに深く関係する方々に、多角的な観点からお話をいただきます。ぜひ、この機会に、医薬品流通の抱える問題、今後の医薬品卸のあり方などについて、思いを巡らせていただきたいと思っています。

ご参加の皆さまの積極的なご質問、ご意見を期待しまして、セミナーの開講のことばといたします。